



# 自然の解説者

自然の解説  
夏季号 [第64号] 2019年7月8日

NPO 法人

ぐんま緑のインタープリター協会紙  
事務局：〒371-0103 前橋市富士見町小暮  
2425-28 櫻井昭寛方  
電話・Fax 0274-42-2726  
<http://inpuri.web.fc2.com/>  
編集：総務企画部会

## ヤマビルの分布と被害対策について

群馬県林業試験場 坂庭 浩之

群馬県で「ヤマビルが増えた！」といった声が聴かれます。群馬県全体でもヤマビルの生息分布は広がっています。今回はヤマビル対策について紹介します。

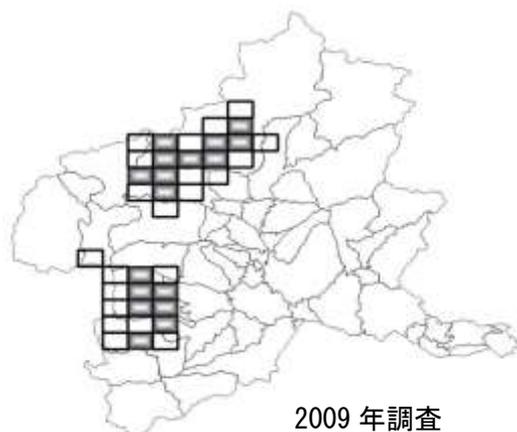
### 群馬県内のヤマビルの分布の変化

県林業試験場ではヤマビルの分布の変化について調査を行いました。2009年(平成21年)と2016年(平成28年)を比較すると、生息範囲が1.3倍の面積に増加していることがわかりました。調査は、現地に詳しい鳥獣保護管理員、自然保護指導員、自然保護団体などに協力してもらいました。

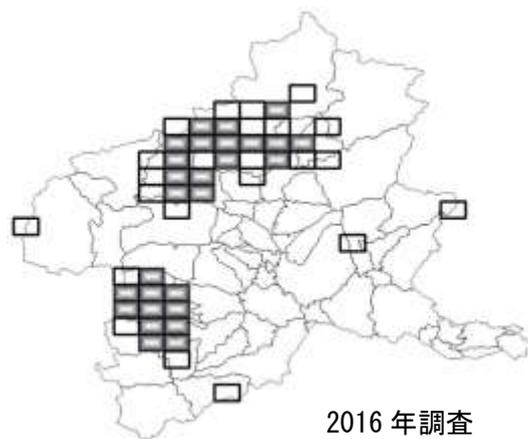
ひとつのメッシュは5×5kmでそのメッシュに生息情報が単発又は複数でも限局している場合を「狭範囲分布」、メッシュ内に広く分布している場合を「広範囲分布」としています。

赤谷プロジェクトエリア内では分布が確実に広がっていることが判読できます。

■ 広範囲分布  
□ 狭範囲分布



2009年調査



2016年調査

### 被害に遭わないために

ヤマビルが生息する場所では吸血の不安から自然をゆっくり楽しめません。そこで、おすすめするのが「ディート30%入り虫除けスプレー」です。

これは蚊やマダニに咬われないために有効な成分「ディート」を高濃度に含んだもので、2016年から厚生労働省が承認を始めた新しいタイプの虫除けスプレーです。

この成分はヤマビルにも有効で、忌避効果、殺ヒル効果が確認されました。しかし、従来から販売されている虫除けスプレーはディート成分が8~12%で、ヤマビルの忌避効果、殺ヒル効果とも非常に低く、効果はないと考えて下さい。



### 狭い範囲を管理する

家の庭など狭い敷地からヤマビルを排除したい場合、ヤマビル駆除剤のマリックスター(住化グリーン(株))が有効です。ヤマビルに薬液が直接かかるようにしっかり散布することでヤマビルを確実に殺し、1~2年後でもヤマビルの生息数は駆除前10%以下(0~0.1匹/m<sup>2</sup>)でヤマビルがほとんどいない環境が確保できます。

施設周辺や広場など参加者が集る場所などで活用してください。

### 今後について

わずか7年の間でヤマビルの分布が大きく広がりました。その原因として、ニホンジカをはじめとする野生動物の分布拡大が要因と考えられます。薬剤を適切に使って自己防御や場所の管理を適切に行ってください。

ディートを使って防除対策をしていると、ヤマビルをしっかり観察する時間がとれます。自然の一部としてヤマビルを観察してみてください！



**<活動報告>****会員資質向上研修1「赤城山歴史探訪」** 4月1日(月)と6日(土) 赤城山鍋割山 総務企画部会

2日間で24名の協会員が参加して清水岩夫講師のガイドで「鍋割山の石の遺構」の研修を行いました。天気にも恵まれ、壊れた神社の鳥居や仏教の遺跡、謎の石積みなどを見て回りました。

鍋割山が大切な信仰の山として守られていたことを示す痕跡を随所に確認しました。(吉永)

**第17回通常総会** 4月21日(日)カネコ種苗ぐんまフラワーパーク花と緑の学習館 総務企画部会

協会員118名が参加(内委任状35名)して通常総会を開催しました。関端孝雄理事長の挨拶に続いて、来賓の県森林環境部緑化推進課神戸徹課長よりご祝辞をいただきました。平成30年度事業並びに2019年度事業案は原案どおり全会一致で承認決定されました。浦野安孫理事退任に伴う役員補充で、吉永真理事が選出されました。(櫻井)

**会員資質向上研修2 講演会「浅間山北麓ジオパーク」** 4月21日(日)

カネコ種苗ぐんまフラワーパーク花と緑の学習館 総務企画部会

長野原町企画政策課中村剛課長を講師に迎えて、協会員61名が出席して「浅間山北麓ジオパーク」の講演会を行いました。「ジオパークとは何か?」から始まってジオパークのポイント、効果、浅間山北麓ジオパークについて詳細に説明頂きました。(櫻井)

**会員資質向上研修3「赤城山メニュー研修」** 5月6日(月祝) 赤城山覚満淵周辺 総務企画部会

前橋市中学校の林間学校自然体験で実施する5ポイントにおいて、関信司、土屋清喜、関端孝雄、大澤ひかる、大谷正明の各講師から各ポイントの指導の重点について学びました。新人も多く参加し、インプリの将来と引き継ぎを感謝した研修でした。(吉永)

**敷島公園まつり** 4月29日(月祝) 敷島公園 受託協力部会

平成最後の祝日、5種類のクラフト作りで敷島公園祭りに出展しました。協会員19名が参加し、緑の募金は47,540円集まりました。(青木)

**「大人のための自然教室」開講式** 5月12日(日) 憩いの森・森林学習センター 総務企画部会・普及部会

受講生29名を迎えて開講式を行いました。理事長から「動植物の多種多様性を理解し、生態系を守るは現代社会の最大の使命である。この講座でさらに自然への理解が深まる事を期待したい。」旨の挨拶がありました。(久保田)

**会員資質向上研修4 ネーチャーゲーム勉強会** 5月18日(土) 憩いの森・森林学習センター 総務企画部会

協会員14名が参加し、茂木由美講師を中心に室内でも実施できるアクティビティを行いました。ベテランの参加が多かったのですが、少年少女のように森の中で遊びながら学びました。動植物の生態を心身共に動かして、体感的に知る、自然体験ゲームでした。(吉永)

**連合ぐんまふれあいフェスティバル in まえばし** 5月26日(日)

前橋公園みどりの散策エリア 受託協力部会

気温35度の猛暑の中、5種類のクラフトを行いました。熱中症が心配でしたが、子供たちは、元気でした。暑かった---!! 協会員10名が参加し、緑の募金は8,435円集まりました。(戸丸)

**会員資質向上研修5 赤城山覚満淵ガイド研修** 6月2日(日) 赤城山覚満淵 総務企画部会

関端孝雄、浦野安孫、大谷正明の3名に講師をお願いし、26名の参加者が3グループに分かれて覚満淵とその周辺を歩いてガイドのポイントを学びました。多くの協会員が子供たちの自然体験のガイドとして、まず一步を踏み出すことを期待します。(櫻井)

**会員資質向上研修6 浅間北麓ジオパーク研修** 6月16日(日) 浅間園スカイロックトレイル

協会員26名が参加して、昨年拓かれたトレイルを、浅間山の植生と地質について地元のガイドさんの解説のもと歩きました。溶岩と火砕流の見分け方、噴出年代の異なる溶岩台地では植生に違いがある、噴火で裸地化した土地に樹木が育つまでの植生遷移を観察できる貴重な山であるなど、浅間山の見方が変わりました。(清水仁美)

**木工教室「前橋子ども育成研究会」** 6月23日(日) 前橋市総合福祉会館 受託協力部会

前橋市子ども会育成研究会の分科会において、親子(大人24名、子供28名)を対象に、協会員7名で工具の扱い方や安全について指導し、山小屋風貯金箱を作りました。(大澤)

**観音山ファミリーパーク自然観察会** 県立観音山ファミリーパーク「自然の森」 総務企画部会

4月26日(土) サクラ観察。講師：神宮開、住谷収 参加者27名(うち一般17名)。(大島)

5月25日(土) 春の実の観察。講師：坂井康良、下田重雄 参加者19名(うち一般9名)。

6月22日(土) 初夏の花の観察。講師：茂木由美、杉原隆 参加者24名(うち一般10名)。

**森林整備** インプリの森 インプリの森部会

5月11日(土) 15名参加。サンデンファシリティからも3名参加し安全祈願を実施。

5月25日(土) 11名参加。手鎌による樹木回りの除草及び森・道路脇の刈払い。

6月8日(土) 13名参加。5月11日に植えた樹木に鹿よけネットを設置後刈払い。(酒井)



緑の窓

赤城山三所明神のこと

第12期生 酒井 良征

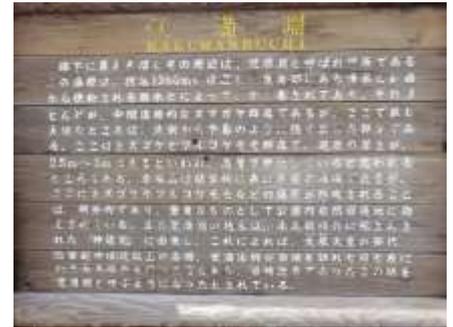


赤城山三所明神について、大沼は千手観音、小沼は虚空蔵菩薩、山頂（地藏岳＝神庫山）は地藏菩薩であることはご存じの方も多いと思います。これは勿論、本地（仏）のことですが、この三所の日本の神について「神道集」の記載を紹介しようと思います。

高野辺の大將家成とその三人の姫、淵名姫、赤城姫、伊香保姫の名前は現在も赤城山のイベントなどで知られています。大將の後妻が妬みから姫達の殺害を企てた結果一番上の淵名姫は利根川に沈められ、二番目の赤城姫は赤城山に逃げ込み、三番目の伊香保姫はなんとか難を逃れました。赤城山に逃げ込んだ赤城姫は沼の竜神（俺佐羅魔女＝おんさらまにょ）に導かれ、その跡を継ぎ「赤城大明神」となります。また、都から戻った高野辺の大將は淵名姫が沈められた場所に身を投げてしましますが、子供たちの行く末を見守るため小沼の神になります。

覚満淵の入口や遊歩道に覚満淵についての案内板があり、その中で覚満淵の名称について「南北朝時代に編さんされた『神道記』に由来し、これによれば允恭天皇の御代（5世紀中頃）比叡山の高僧、覚満法師が当地を訪れ七日七夜にわたる大法会を行ったことから、・・・この地を覚満淵と呼ぶようになった」と記されています。三姫達の話から20年以上後のことですが、比叡山の僧覚満は弥勒菩薩にめぐり会えるよう近江の国の大明神にお願いします。すると「赤城沼の岸で法華経を読めば弥勒の出現に会えるような施主が現れる」とお告げがありました。お告げに従い、赤城沼の岸で法華経を読んでいると、美しい女性がやってきて、説教も聞かせてほしいと頼まれます。この美しい女性こそ、（記載はありませんが）かつての赤城姫、後の赤城大明神と思われる。そして地元の山の神、他国、近隣の神々が集まり七日七夜の大法会と繋がります。

その後覚満は山頂（地藏岳＝神庫山）に留まり、覚満大菩薩となります。大沼は赤城姫＝赤城大明神（赤城明神）、小沼は高野辺の大將家成（小沼明神）、この三神が赤城山三所明神の日本の神（垂迹神）とされています。



鳥居峠の案内板

豆知識

雑草の話 14

理事長 関端 孝雄

土手に限らず、畑、空き地や道端などに自生するホトケノザは多くは早春から開花します。ここ一面に畑などを覆っていた花も5月中旬には姿を消しました。その場所を良く見るとアメリカフウロが生い茂り、その下に辛うじて生きながらえている個体が幾つかありました。もうここでは交代の時期なのです。

ホトケノザは、かつては春の七草のひとつに数えられましたが、食することの出来るコオニタビラコ（キク科）に、いつしか名前が変わってしまいました。春の七草は、せり、なずな、ごぎょう（ハハコグサ）、はこべら（ハコベ）、ほとけのぞ（コオニタビラコ）、すずな（カブ）、すずしろ（ダイコン）の7種類です。七草粥を食べることで1年の万病を除き邪気を払うとされることが万葉の時代から伝えられています。

ホトケノザは、シソ科オドリコソウ属で、断面が四角の茎に葉を対生に多数付けます。茎の上部につく葉は葉柄が無く丸い鋸歯のある扇形をしており、向かい合う葉は丁度仏像の円座に見えます。その葉腋に白い短毛を散生する赤紫色の細長い筒状の花を着けます。これが和名の由来ですが、葉の付き方からサンガイグサとも呼ばれます（図1）。

花冠は上唇と下唇が開いた口の形で唇形花と呼ばれ、馬が口を開けているように見えます。上唇はかぶと状で上面には赤紫色の毛が密生しており、内側に雄しべと雌しべが収まっています。下唇は先の方が2裂して垂れ下がり、そこに赤紫色の斑点（密標）を着けてハチやアブを誘導し、この上に乗るのに都合良くしています。4本の雄しべには毛の多い葯が縦につき、2本ずつ上下に並んで（2強雄ずい）虫を迎えます（図2）。蜜を求めてやって来た虫の背中に多数の花粉を付けるという寸法です。萼は多毛で5裂し細毛状です。

夏季頃になると虫の訪れがなくなり、蕾があっても開花せず（閉鎖花）、自家受精をして確実に結実します。萼筒の中には4つの種子が収まっています。また、種子にはアリが好物とするエライオソーム（脂肪酸・アミノ酸・糖を含む）を用意（図3）し、散布を助けて貰うなど、いずれも生きるための巧みな技を備えています。草丈は低いものの、うどんこ病を発症しやすいので畑にははびこってもらいたくない2年草です。



図1. ホトケノザ



図2. 花の構造

図3. 種子

JR 吾妻線市城駅前の国道 145 号線を東へ 100m 程進むと、右側の小川端にサイカチの巨木がある。主幹を覆うごつごつと膨らむ数多くのこぶが、歴史を感じさせる。

以前は近くに「群馬県指定天然記念物 目通り 4.9m、推定樹齢 600 年」と書かれた説明板と、別に「日本一のサイカチの木」と大書きされた看板があったが、説明板は無くなり、大看板の方も「日本一」は消され、「サイカチの木」の文字だけが残る。

ある植物学者が「日本でサイカチが衰退し、野生株が少ないのは、実を食料とし種子散布を担っていたナウマンゾウが絶滅したから」と私見を述べていたが、烏川流域の玉村町の川原等にはサイカチの大木が自生しているのを見ると、種子散布は動物だけでなく川の水も利用されているのだろう。

中之条町には「サイカチ橋」と言う名の橋や、「サイカチ石」と呼ばれる石の産出地区もあったと言う。その名から、かつて近くにサイカチの大木や林があった事が分かり、興味深い。ハッ場ダムの関連工事の橋建設現場では数年前に野生株のサイカチの大木が見つかり、保存するか伐採するかで長期間工事が中断された。最終的には、木が切られ橋は架けられたが、「サイカチの野生株が希少価値」を物語る事例である。

ところが江戸時代には、大名屋敷の多くが屋敷の東北の方角に 1 本、サイカチの木を植えていたと言う。サイカチの実(写真 1)は、水につけておくと泡立ちサポニンが抽出され、洗剤として利用できる。石鹸の無かった当時、実を石鹸の代わりに使うために植えていたらしい。では、なぜ屋敷の東北なのかと言うと、鋭く長いトゲ(写真 2)で、悪霊や敵の侵入から屋敷を守るための鬼門除け(写真 3 参照)の意味があった。

実(じつ)は、市城のサイカチの巨木にも、歴史がある。



写真 3. 市城のサイカチも、現家屋敷の東北の方角(鬼門)に位置する

甲冑をつけた人骨が出土した渋川の金井東裏遺跡の調査から分かった様に、5 世紀に大和地方に渡来した馬の文化は、信州を経由して 5 世紀末には上野にも伝わり、奈良、平安時代の上野には朝廷に馬を献上する「御牧」が 9 つも置かれ、その一つに「市代牧」があった。つまり、現在「市城」と呼ばれるこの地域一帯は、旧字名は「市代」であり、「市代御牧跡」と言う事になる。馬が中心の牧場経営は、その後中近世までも続き、市代牧からは多くの名馬を輩出したと記録に残る。天正時代の沼田城主、海野能登守輝幸の愛馬も「市代黒」と称し、ここから産出した。

当時、軍馬や農耕馬、交通の輸送馬として利用された馬の飼育には細心の注意が払われ、特に病虫害から馬を守るのは、牧場管理者の大切な仕事だったと言う。そこで牧管は、牧場内の川沿いの馬の洗い場近くにサイカチの木を植え、鋭いトゲで馬の食害を免れ、やがて成長したサイカチが実をつけると、その実を馬の洗体、特に尻周りの消毒に使ったらしい。

世代交代はあったろうが、市城のサイカチの巨樹はその生き残りであり、「市代牧の歴史」を今に伝える語り部と言える。益々元気に成長を続け、大きなさやの実を、毎年実らせて欲しい。



写真 1. サイカチの巨木の樹下に落ちていた沢山の果(さや)



写真 2. サイカチのトゲは長く鋭い。動物の食害から身を守る

#### <協会が実施する事業・研修会等>

実施日	内容	会場
7月14日(日)	自然体験事業①「夏の赤城山自然観察会」	赤城山
7月21日(日)	前橋市委託①「生き物観察とクラフト」	おおさる山乃家
7月27日(土)	観音山ファミリーパーク「子ども自然観察会」	県立観音山ファミリーパーク
7月28日(日)	自然体験事業②「木工を楽しもう！」	あかぎ木の家
8月4日(日)	前橋市委託②「川の生き物調べと水鉄砲作り」	おおさる山乃家
8月10日(土)	わくわく子どもまつり「小鳥の巣箱作り」	前橋プラザ元気 21
8月11日(日)	会員資質向上研修⑦「シカ食害対策アミ巻」	赤城小沼周辺
8月24日(土)、9月21日(土)	観音山ファミリーパーク「自然観察会」	県立観音山ファミリーパーク
7月13日(土) 27日(土)、8月10日(土) 31日(土)、9月14日(土) 21日(土)		森林整備   インプリの森他

<編集後記> プラスチック製ストローの廃止の動きが広がっています。紫外線や塩分で劣化して、マイクロプラスチックとなり、海の表面や海底に堆積して、近い将来、魚の量より多くなるといわれています。魚も海鳥も、お腹にプラスチックが一杯入ってしまって、生態系が崩れることにもなりかねません。プラスチック製品全般の使用を制限するとともに、手近に出来ることから少しずつ始めることが重要なことと思います。(吉田卓一)